

「東京グローバル人材育成計画 ’ 20 (Tokyo Global STAGE ’ 20)」(素案) に対する意見募集の結果について

◇ 意見募集結果の概要

1 募集期間

平成 29 年 11 月 9 日から同年 12 月 11 日まで

2 提出方法

電子メール又はファクシミリ

3 意見の総数(延べ数)

40 件 32 人

4 属性と人数

属性	人数
ア 保護者	4
イ 学校関係者	0
ウ その他(個人)	24
エ その他(団体)	4
合計	32

5 項目と件数

項目	件数
I 計画查定の狙いや目標について	
1 ねらいについて	2
2 グローバル教育の目的について	6
3 東京の未来像について	2
4 英語力の目標値について	1
II 計画の具体的な内容について	
1 小学校英語の教科化等への対応について	1
2 「世界ともだちプロジェクト」による交流について	2
3 海外留学の支援について	1
4 国際貢献意欲の育成について	6
5 国際色豊かな学校の拡充について	2
6 都立高等学校入学者選抜英語学力検査の改善について	1
III その他	
1 表記について	16
合計	40

「東京グローバル人材育成計画'20(Tokyo Global STAGE'20)」(素案)に対する主な意見

No	分野	項目	主な意見(要旨)	東京都教育委員会の考え方	意見提出者の区分
1	I 計画査定のねらいや目標について	ねらいについて	・狙いが曖昧である。ビジネスの現場で英語を使える人材を育成すべき。	・本計画では、今後の外国人との多様な交流機会の拡大を念頭に、英語を使用する様々な場面を想定して「使える英語力」の育成を大きな柱の一つとして取組を進めてまいります。	その他(個人)
2		グローバル教育の目的について	・グローバル教育＝英語教育という発想から抜け出せていない。平和・人権・環境などの人類全体の課題に、国境を越えて協力して取り組んでいこうという哲学がない。	・東京都教育ビジョンでは、グローバル人材の育成に関して「使える英語力の育成」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」の三本柱を示しています。本計画ではその柱に則って具体的な20の施策を展開してまいります。	その他(個人)
3			・そもそも、「人間」ではなく「人材」の育成を目的としていることが問題。個人を尊重するような表現にすべきである。	・本計画では、教育基本法や学習指導要領を踏まえ、個々の生徒が、自ら将来を見据え、持続可能な社会の創り手として主体的に次代を切り拓くために必要な資質・能力の育成を目指してまいります。	その他(個人)
4		東京の未来像について	・「外国人の憧れの地」等の表現について、現在の東京は便利な一面居住地として適さない部分もある。東京に移住する外国人を受け入れる体制を整備するつもりはあるのか。経済的に自立している成人の外国人が元気に働ける間だけ東京に住むという都合のいいことだけを想定しているのではないか。	・「未来像」の項目では、様々ある課題等に対応した将来の姿を一つの想定として教育の観点から例示したものとなっております。本計画に則り、一つ一つ着実に課題解決に向けた取組を進め、児童・生徒にとって明るい未来が訪れるよう邁進いたします。	その他(個人)
5		英語力の目標値について	・生徒・教員の英語力の目標値が高すぎる。学校現場に無理を強いると同時に、東京都の教育が英語に振り回されているという印象を受ける。	・世界的にグローバル化が一層加速していくことが想定される中、国内でも小学校英語教科化や大学入学共通テストにおける民間事業者等実施の資格・検定試験の導入など、英語教育を取り巻く環境は日々大きく変化しております。また、東京都では、東京2020大会も目前に控えており、外国人との交流機会も飛躍的に拡大することが見込まれることなどの状況を踏まえ、目標を設定しております。本計画を着実に履行し、目標の実現に向けて取り組んでまいります。	その他(個人)
6	II 計画の具体的な内容について	小学校英語の教科化等への対応について	・小学校での英語教育について、専門家の疑問もある中、また教員の体制が整備されない中で導入するのでは教員や児童が犠牲になるだけ。また学習塾に通わせる必要を感じる保護者が増え、経済力と子供の学力とが連動する傾向が今以上に顕著になることが懸念される。	・本計画では、国の定める平成32年度の新学習指導要領全面実施に向けた東京都教育委員会における施策を示しております。これら施策を展開するとともに、各区市町村教育委員会とも連携を十分に図りながら、円滑な移行・実施が可能となるよう課題の把握や必要な支援策の検討を進めてまいります。	その他(個人)
7		「世界ともだちプロジェクト」による交流について	・グローバル人材の育成をオリンピック・パラリンピック教育に結び付けたいのなら、「都教委作成の小中高校用『五輪学習読本』」の記載に関して「表彰式では国旗・国歌ではなく、選手団の旗と歌(曲)を用います」と改めなければいけません。」と、修正・加筆すべき。	・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が公表している開催都市契約大会運営要件では、開・閉会式及び表彰式で使用する旗・歌については、「国旗」、「国歌」と定めております。	保護者・その他(団体)
8		海外留学の支援について	・「次世代リーダー育成道場」について、「道場」を用いると精神主義を感じてしまう。	・「道場」という表現に精神主義的な意味合いを持たせる意図はなく、事前研修や留学を通して資質や能力を身に付け自分を鍛えていく「学校」以外の学びの場として「道場」という言葉を用いております。	その他(個人)

「東京グローバル人材育成計画'20(Tokyo Global STAGE'20)」(素案)に対する主な意見

No	分野	項目	主な意見(要旨)	東京都教育委員会の考え方	意見提出者の区分
9	Ⅱ 計画の具体的な内容について	国際貢献意欲の育成について	・「社会貢献」の意味合いが不明瞭→提案:「グローバル化が進展する社会の到来と共に、地球規模で生じている貧困や環境破壊への問題意識を持ち、国際社会の一員としてそれらの問題解決に貢献できる人材の育成が必要」	・第二章「15 国際貢献意欲の育成」部分において社会貢献・国際貢献に関する具体的な記述を追記しました。	その他(個人)
10			・国際貢献意欲の育成に関する事業がJICAとの連携のみ。他団体との連携や「持続可能な開発のための教育」の普及に関する取組を広げるべき。	・JICAとの連携も含め、引き続き、児童・生徒の国際貢献意欲をいかに育成していくべきか、検討を進めてまいります。 ・ESDの普及については、東京グローバルユースキャンプも含め、グローバル人材育成の枠組みにとらわれず、様々な形で普及啓発が行われております。	保護者・その他(個人)
11		国際色豊かな学校の拡充について	・帰国子女に関する記載がない。帰国子女が言語力及びグローバルな考え方を維持できる学校環境の整備を希望する。	・本計画では、海外帰国児童・生徒も含め公立学校に所属する児童・生徒を対象としております。 また「国際色豊かな学校の拡充」で示す取組の検討にあたっては、海外帰国児童・生徒の受入れや、その対応も視野に検討を進めております。 なお、現在でも一部の都立高校ではありますが、帰国生徒等の受入れにあたり、海外帰国生徒対象の入学選抜を実施するなどの取組を行っております。	その他(個人)
12			・日本語の不自由な外国人の児童生徒のために、祈りの時間や服装・給食の食材などの配慮も必要となるが、このような部分への対策が書かれていないとリアリティを伴わない。	・「未来像」の項目では、様々な課題等に対応した将来の姿を一つの想定として教育の観点から例示したものとなっております。外国人の児童・生徒とのより良い交流や異文化理解教育の更なる充実に向けて、本計画で示す取組を進めてまいります。	その他(個人)
13		都立高等学校入学選抜英語学力検査の改善について	・高校入試で「話すこと」の評価を取り入れることを検討するにあたっては、評価の客観性・公平性だけでなく、短い時間で採点可能なか等現実に即して考える必要がある。	・都立高校入学選抜英語検査において「話すこと」を評価するにあたっては、御指摘のとおり、採点方法や運営方法等についての検討も必要と認識しております。このため、平成30年度には、実施に向けたフィージビリティ調査を実施する予定であり、本調査に関する記載を追加しました。	その他(個人)
14	Ⅲ その他	表記について	・「育成すべき具体的な能力」のうち、「自覚と誇り」「感覚と寛容性」は能力ではない。	・御指摘の部分については、グローバル人材育成に当たっての重要な要素であるとの認識から記載したところですが、御指摘のとおり能力というよりは資質や態度という意味合いとなりますので、その旨追記しました。	保護者・その他(個人)
15			・「日本人としての自覚と誇りの涵養」等国家主義的な記載を削除すべき。	・自らのアイデンティティを理解し尊重する態度は、世界で活躍するグローバル人材を育成する上で重要な要素の一つであるとともに、他国の歴史や文化を理解し敬意を払う態度の育成につながるものと考えます。これらの視点も踏まえ、引き続きグローバル人材の育成に取り組んでまいります。	保護者・その他(個人)・その他(団体)